

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医事情報処理演習 Exercise in Medical Information Processing		1年	集中（前期）	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(ICD・医療秘書・医療事務検定対策)	メディカルクラークユニット履修者のみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
医学一般の科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
請求実務演習Ⅰ・Ⅱ、医療秘書演習Ⅰ、医事コンピュータⅠ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
(主) 古川 貴子・小竹 仁美	講義棟 2階	火・水・木・金の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
ICDコーディング及び医療秘書・医療事務技能審査試験対策授業である。				
授業の目標				
① ICDコーディング検定及び医療秘書・医療事務技能審査試験の受験資格を得ることができるようにする。 ② 学内研修において窓口対応業務を行うことができるようにする。				
授業の方法				
検定試験を想定した時間配分で過去問題や、オリジナル予想問題を中心に学習し、検定合格を目指す。				
学習の成果（学習成果）				
① ICDコーディング検定及び医療事務技能審査試験の受験資格を得ることができる。 ② 学内研修において学内事務業務を理解し、率先して行動することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	医療事務技能審査試験対策 医療法規①(医療保険に関する法規)			(小竹)
第2回目	医療事務技能審査試験対策 医療法規②(診療報酬に関する法規)			(小竹)
第3回目	医療事務技能審査試験対策 医療法規③(予防・保健衛生に関する法規)			(小竹) 小テスト①
第4回目	医療事務技能審査試験対策 学科①(公費負担制度)			(小竹)
第5回目	医療事務技能審査試験対策 学科②(介護保険制度)			(小竹)
第6回目	医療事務技能審査試験対策 学科③(後期高齢者医療制度)			(小竹) 小テスト②

第7回目	I C Dコーディング検定対策 ① (循環器科)	(古川)	
第8回目	I C Dコーディング検定対策 ② (呼吸器科)	(古川)	
第9回目	I C Dコーディング検定対策 ③ (内分泌・代謝疾患)	(古川)	
第10回目	I C Dコーディング検定対策 ④ (消化器科)	(古川)	
第11回目	I C Dコーディング検定対策 ⑤ (妊娠・分娩)	(古川)	小テスト③
第12回目	医療秘書検定対策 外来 ① (新生物)	(古川)	
第13回目	医療秘書検定対策 外来 ② (皮下組織疾患) 業内で指示)	(古川)	レポート ① (提出期限は授
第14回目	医療秘書検定対策 入院 ① (感染症)	(古川)	
第15回目	医療秘書検定対策 入院 ② (損傷・中毒) 業内で指示)	(古川)	レポート ② (提出期限は授

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	演習問題に積極的に取り組んでいる。
レポート	20%	課題の期日を守り、的確な解答の記載をしている。
調査報告書		
小テスト	30%	授業の達成目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
試験		
発表内容 (態度含む)		
その他	20%	検定試験の合否で加点する。

教科書と参考図書

I C Dコーディング基本テキスト (日本コーディングセンター) 診療報酬早見表 (医学通信社) 医療事務医科テキスト1 ～4 (ニチイ学館) 医療事務医科ステップブック1～3 (ニチイ学館) 医療事務医科ハンドブック (ニチイ学館)
--

履修上の留意点・ルール

I C Dコーディング及び医療事務技能審査試験を受験する場合は必ず履修すること。 電卓を用意すること。夏休み中の学内研修参加は必修。
--